

大網白里市

両総用水事業推進協議会 副会長
大網白里市長 金坂昌典



大網白里市は、九十九里平野のほぼ中央に位置し、東京都心から電車で1時間という交通アクセスのよさにあるながら、温暖な海洋性気候のもと、西部は緑豊かな丘陵部、中部は広大な田園部、東部は白砂青松の海浜部と豊かな自然に恵まれています。

丘陵部の小中池には桜が咲き誇り、5月にはたくさんの鯉のぼりが池の上空を泳ぐ圧巻の姿が見られます。また、金谷郷地区では5万本のひまわりがいっせいに咲き、県外からも多くの観光客が訪れます。本市を代表する観光スポット、白里海岸では季節を問わずサーフィンを楽しむ人々の姿が見られ、夏には多くの海水浴客のパラソルが海岸一面を彩ります。

温暖な気候を利用した米作り・野菜作りも盛んに行なわれています。キュウリ・トマト・ナスなどの施設野菜や、タマネギ・トウモロコシといった露地野菜が盛んに栽培されているほか、最近では若手農家を中心にネギの作付けにも力を入れており、千葉県ブランド『プレミアム夏ネギ』の産地として、その一翼を担っているところです。

また、毎週日曜日に開催される「朝市」や「白里遊楽市」では、これらの新鮮な野菜に加え、水産加工品や手作り食品など、地域ならではの産品が数多く並び活気にあふれています。また、若手農家を中心に構成される農業研究会の収穫体験会など、農業による地域の活性化にも積極的に取り組んでいます。

本市は、このように、基幹産業である農業と、都心に近いという好立地を背景に着実に発展を遂げてまいりましたが、付近に大きな水源を有しない九十九里地域一帯は、かつては恒常的な「水」不足に悩まされ、各家庭の生活は井戸水に、農業は主として雨水に頼る極めて不安定なものでした。特に、農業においては、たびたび発生する干ばつの被

害に対し有効な手立てを講じられない状態がながらく続いていましたが、こうした状況が抜本的に改善されたのは、いうまでもなく、昭和40年に竣工された両総用水、さらには、これを受けて整備された房総導水路の恩恵によるところであり、この実現のため昼夜をおかず尽力し、現在の本市のみならず九十九里地域における水田農業の礎を築いた十枝雄三翁をはじめとする先人たちのご労苦に、あらためて頭が下がる思いがいたします。

昭和29年に本市の前身である大網白里町が誕生したとき、わずか2万5千人に過ぎなかった人口は、その後、飛躍的に増加し、平成22年の国勢調査において5万人に到達するに至りました。そして、平成25年の市制施行により大網白里市となった本市は、今年、市制5周年という新たな節目を迎えています。今後も、自然と都市空間が調和したまちづくり、「未来に向けて みんなでつくろう!住みたい・住み続けたいまち」の実現のため全力で取り組んでまいります。



朝市の様子



JR線高架下のひまわり畑